

科目名：言語表現（演習2単位）		担当：小野紀子	使用テキスト：『声に出して読みたい日本語』
授業の到達目標及びテーマ：児童文化を中心とした保育環境の展開のための自己の言語表現力の向上をめざし、実践につなげる。			
授業の概要：児童文化の様々な表現における特徴を把握し、優れた言語表現にふさわしながら、子どもたちと共にその世界に遊べるよう保育者としての自己の言語表現力の向上をめざすとともに、子どもの興味や関心を深める実践法を探る			
回	項目	内容	
1	日本文化の特色と 言語表現について	言語表現法への取り組みにあたり、日本の言語文化の特色と魅力について考える。 『お話し』の基本となる発声・発音・はやしなどについて資料に基づいた実践活動をする。	
2	音読練習 I 文字なし絵本について	短編の音読練習をとおして、自分の表現を見直す。 文字なし絵本を取り上げ、より子どもの思いをふくらませる工夫について考える。	
3	子どもの発達とお話 ストーリーテリング	幼稚園実習を控えて、音声による言語表現について実践する。 声の調子・高さ・速さ・繰り返しなどの再確認 年齢に合わせたお話し選び	
4	子どもの発達と絵本 — 絵本とお芝居	幼稚園実習を控えて、絵本の読み聞かせからお芝居に発展させることを考える。 声の調子・高さ・速さ・繰り返しなどの再確認 年齢に合わせた絵本選び	
5	言葉のリズム	古くからの「あいうえお歌」、新しい「あいうえお歌」の工夫を楽しみながら 自らの「あいうえお歌」の作成に取り組む。言葉とリズムの関係に気づく。	
6	音読練習 II お話の暗誦	短編の音読練習をとおして、自分の表現を見直す。言葉のリズム、文の流れ、適切な表現 次回までに3歳児に合わせたお話の暗誦を課題とする	
7	ストーリーテリング の実践について	3歳児に合わせたお話の暗誦について 導入 内容 表現 速さ その他の必要な要素について考え実践する。	
8	ストーリーテリング の実践について	4・5歳児に合わせたお話の暗誦について 導入 内容 表現 速さ その他の必要な要素について考え実践する。	
9	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、日本文化の伝統的な言葉遊びについて振り返り、 自分なりの言葉遊びにつなげるように考える — いろはかるた	
10	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、日本文化の伝統的な言葉遊びについて振り返り、 自分なりの言葉遊びにつなげるように考える — 新しいかるた	
11	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、文脈の整え方について学ぶ。 文節のつながり、文脈のつながりについて考え、問題に取り組む。	
12	自己の語彙力の向上	自己の言語表現力向上をめざし、日本語の豊かな表現の再確認をする。 四字熟語、ことわざ	
13	文章表現について I	描写文の例を参考に、自分なりの表現に取り組む。 言葉 — 文 — 文章 順序と構成について考える。	
14	文章表現について II	優れた文例をもとに、どんな表現が人を魅きつけているのかについて考える。 小品の中に見る表現の魅力を考える。	
15	文章表現について III 「自分を支える言葉」	これまでの学習を念頭におきながら、「自分を支えてきた言葉」について考え、 発表することを念頭に文章をまとめる。何をどの様に伝えるか。	

参考資料：『縦横無尽の文章レッスン』 村田 喜代子

『幼児期』 岡本夏木

『海色の三輪車』 パコタ幼稚園

『子どもたちと絵本』 長谷川 摂子

『子どもと言葉』 岡田 明 他 明文書林

『絵本と保育』 梅本 妙子

学生に対する評価方法：それぞれの課題に対する取り組み内容・提出物・まとめた小論文による